



# 自動運転の状況について

官民 ITS 構想・ロードマップ 2017 (内閣官房 IT 総合戦略室) について

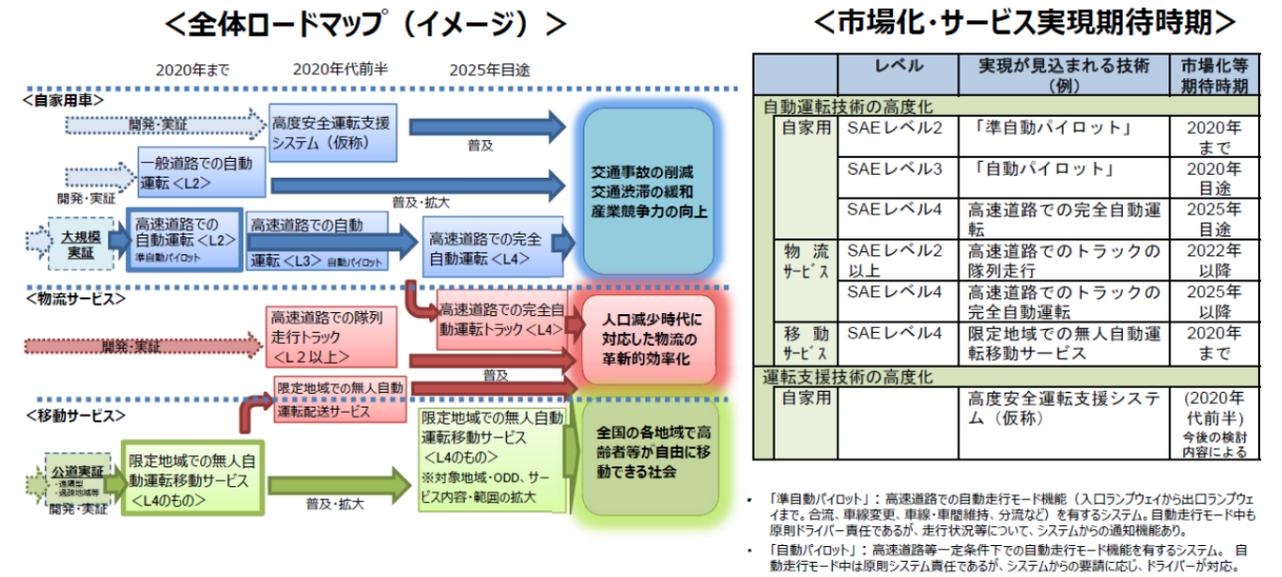
## 「官民ITS構想・ロードマップ」これまでの経緯

- IT総合戦略本部では、ITS・自動運転に係る政府全体の戦略である「官民ITS構想・ロードマップ」を、これまで3回にわたって策定・改定(昨年版は「官民ITS構想・ロードマップ2016」)。
- 内閣府では、省庁横断的研究開発プログラムであるSIP自動走行が、2014年から本格開始。



## 自動運転システムのシナリオと市場化期待時期

- 前述の我が国における重点的・産業目標を踏まえ、まずは、2020年までの①高速道路での自動運転、②限定地域での無人自動運転移動サービスの実現を目指す。
- その上で、2025年までの自動運転システムの開発・普及に係るシナリオ、及び、市場化・サービス実現期待時期を、以下の通り、自家用車、物流サービス、移動サービスに分けて示す。



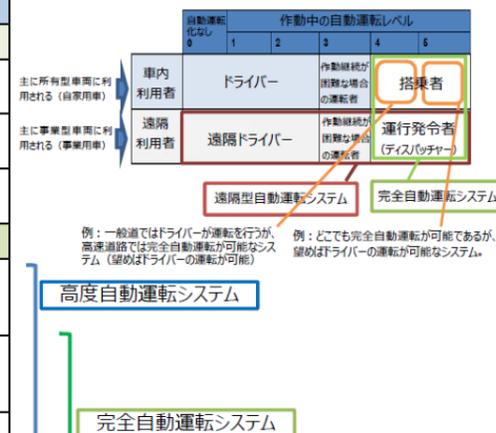
## 自動運転レベルの定義

- 米国の新たな自動運転政策の発表を踏まえ、我が国における自動運転レベルの定義として、「SAE (Society of Automotive Engineers) J3016 (Sep2016)」を採用。
- 本ロードマップでは、SAEレベル3以上を「高度自動運転システム」、SAEレベル4、5を「完全自動運転システム」と呼ぶ。また、利用者(ドライバーに相当する者を含む)が車両外に存在するシステムを「遠隔型自動運転システム」と呼ぶ。

### 自動運転レベルの定義概要 (SAE J3016 (Sep2016))

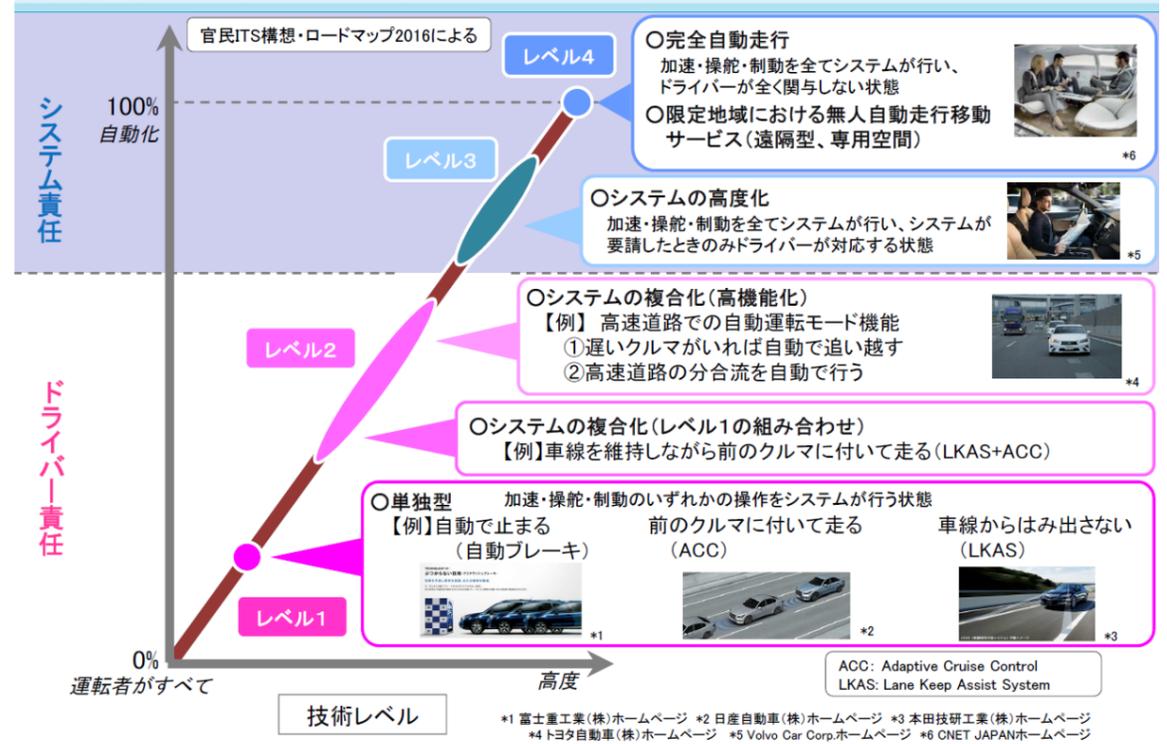
レベル	概要	安全運転に係る監視、対応主体
運転者が全てあるいは一部の運転タスクを実施		
SAEレベル0 運転自動化なし	運転者が全ての運転タスクを実施	運転者
SAEレベル1 運転支援	システムが前後・左右のいずれかの車両制御に係る運転タスクのサブタスクを実施	運転者
SAEレベル2 部分運転自動化	システムが前後・左右の両方の車両制御に係る運転タスクのサブタスクを実施	運転者
自動運転システムが全ての運転タスクを実施		
SAEレベル3 条件付運転自動化	システムが全ての運転タスクを実施(限定領域内*) 作動継続が困難な場合の運転者は、システムの介入要求等に対して、適切に対応することが期待される	システム (作動継続が困難な場合は運転者)
SAEレベル4 高度運転自動化	システムが全ての運転タスクを実施(限定領域内*) 作動継続が困難な場合、利用者が応答することは期待されない	システム
SAEレベル5 完全運転自動化	システムが全ての運転タスクを実施(限定領域内*ではない) 作動継続が困難な場合、利用者が応答することは期待されない	システム

### 遠隔型自動運転システムの位置づけ



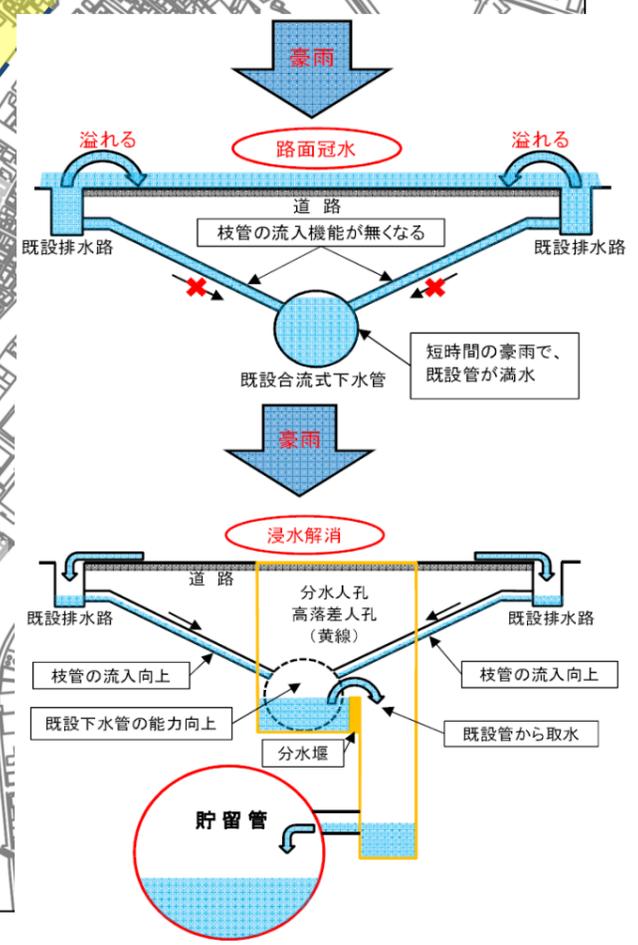
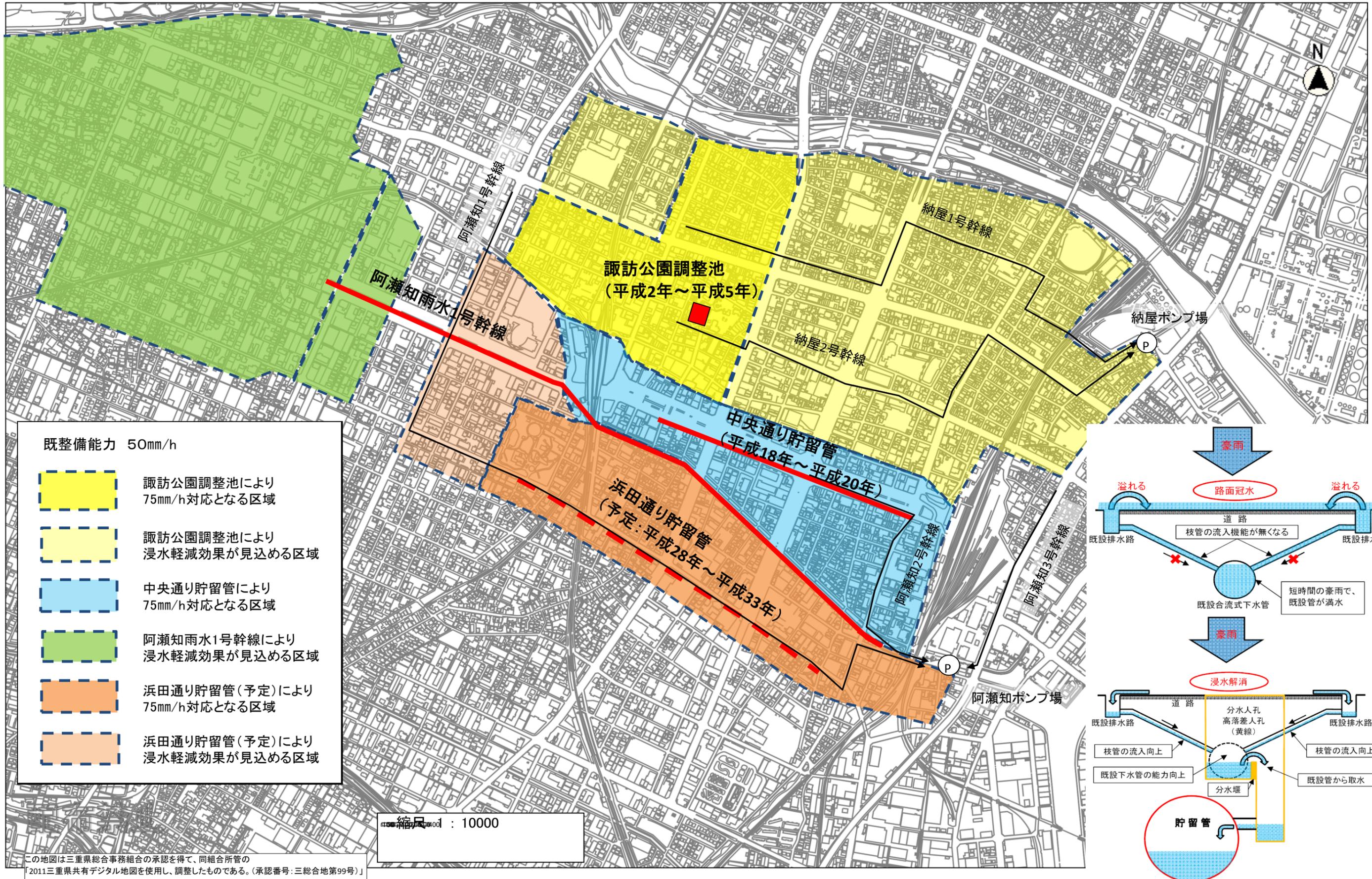
\*ここでの「領域」は、必ずしも地理的な領域に限らず、環境、交通状況、速度、時間的な条件などを含む。

## 自動運転の定義(レベル分け)



\*1 富士重工業(株)ホームページ \*2 日産自動車(株)ホームページ \*3 本田技研工業(株)ホームページ \*4 トヨタ自動車(株)ホームページ \*5 Volvo Car Corp.ホームページ \*6 CNET JAPANホームページ

# 中心市街地の雨水貯留施設による整備効果



【中心市街地における自転車交通量図】

【自転車】交通量図（12時間計 7時～19時）

調査日：平成28年11月18日（金）

\* 赤帯の表示は今回の交通量調査結果である。一方、茶帯の表示はH27年度実施の中心市街地歩行者交通流動調査結果であり、9時～19時の10時間の計測結果である。

【駐輪場の状況】

□北自転車駐輪場

駐輪可能台数:983台

駐輪実績(H28):545台/日(55%)

□南自転車駐輪場

駐輪可能台数:887台

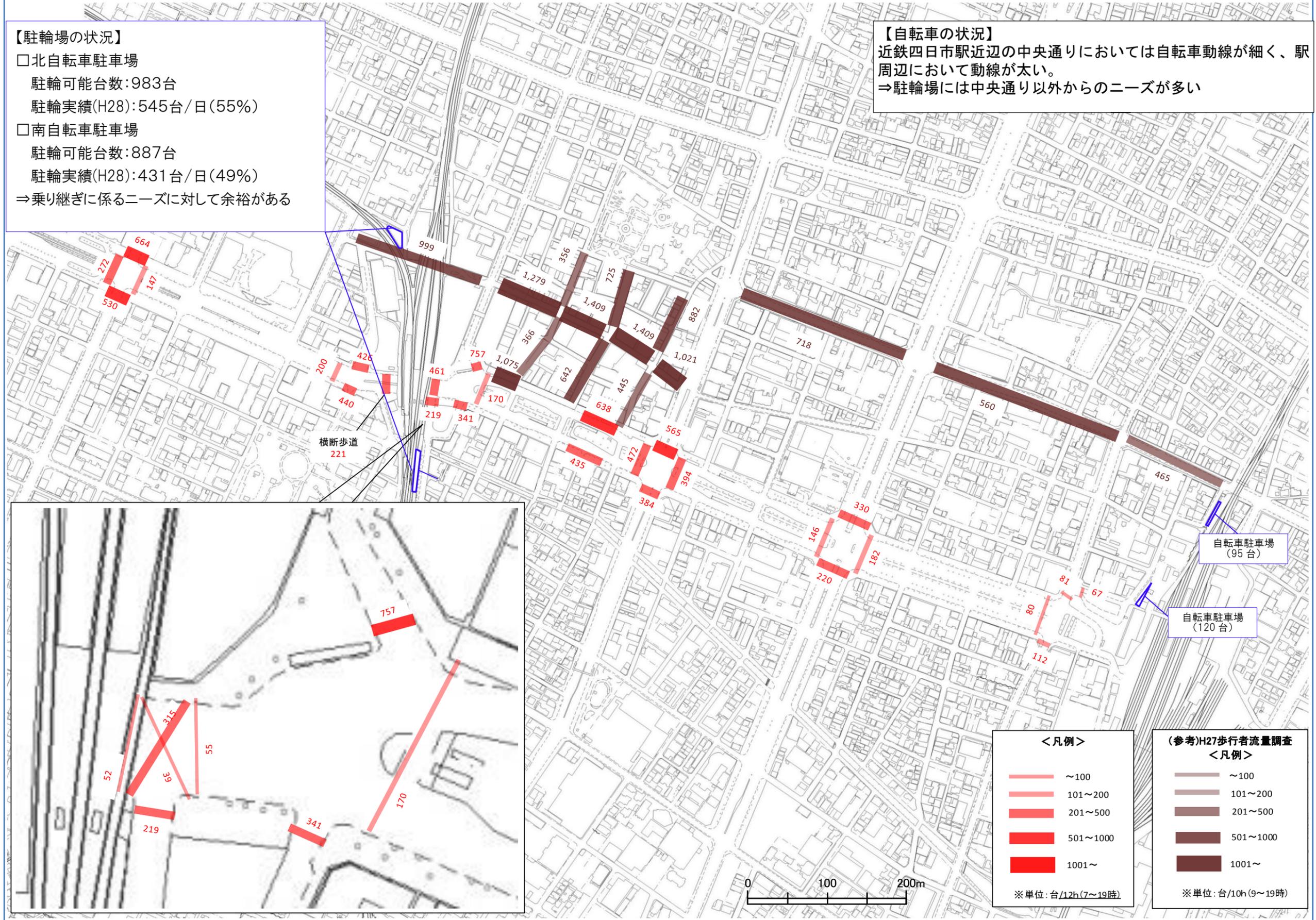
駐輪実績(H28):431台/日(49%)

⇒乗り継ぎに係るニーズに対して余裕がある

【自転車の状況】

近鉄四日市駅周辺の中央通りにおいては自転車動線が細く、駅周辺において動線が太い。

⇒駐輪場には中央通り以外からのニーズが多い



<凡例>

薄赤色	～100
赤色	101～200
濃赤色	201～500
鮮赤色	501～1000
深赤色	1001～

※単位：台/12h(7～19時)

(参考)H27歩行者流量調査  
<凡例>

薄茶色	～100
茶色	101～200
濃茶色	201～500
鮮茶色	501～1000
深茶色	1001～

※単位：台/10h(9～19時)

顔・玄関口としての環境空間事例

▼事例①: 長崎駅前広場(長崎市)

●快適で特徴的な待ち合いもてなし空間を創出



【広場面積】: 約 1,500 m<sup>2</sup>(大屋根下)

▼事例②: 大分駅前広場(大分市)

●駅前にシンボリックな広場空間を創出



【広場面積】: 約 850 m<sup>2</sup>(大屋根下)

▼事例③: 金沢駅前広場(金沢市)

●大屋根やシェルターにより象徴的で快適な歩行者空間を創出



【広場面積】: 約 3,000 m<sup>2</sup>(大屋根下)

▼事例④: 奈良駅前広場(奈良市)



【広場面積】: 約 460 m<sup>2</sup>(大屋根下)

●行基像の噴水を設置し、駅前待ち合い空間を創出

緑を基調とした環境空間事例

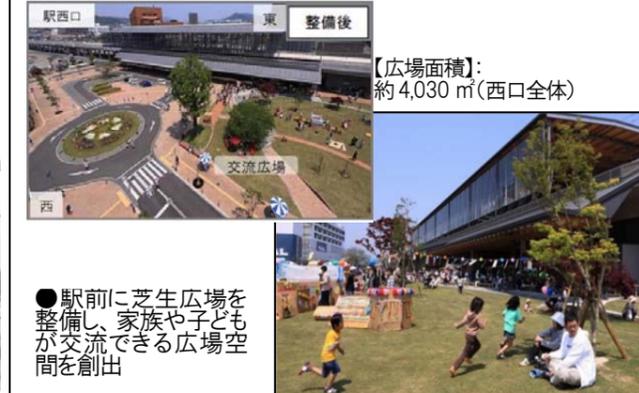
▼事例⑤: 姫路駅 芝生広場(姫路市)



【広場面積】: 約 2,040 m<sup>2</sup>(芝生)

●駅前に芝生広場を確保し、子どもたちも快適に遊べる広場空間・憩いの空間を創出

▼事例⑥: 日向駅 交流広場(日向市)



【広場面積】: 約 4,030 m<sup>2</sup>(西口全体)

●駅前に芝生広場を整備し、家族や子どもが交流できる広場空間を創出

▼事例⑦: 岩見沢駅(岩見沢市)



●駅前にシンボルツリーを設置し緑を基調とした歩行者広場空間を創出

▼事例⑧: 新青森駅(青森市)



●シンボルツリーにサークルベンチを設置し、駅前の待ち合い空間を創出

歩行者広場としての環境空間事例

▼事例⑨: 新潟駅前広場(新潟市)

●駅前のオープンな歩行者広場を創出し、マルシェ等に活用



【広場面積】: 約 1,350 m<sup>2</sup>(歩行広場面積)

▼事例⑩: 自由が丘駅(目黒区)



【広場面積】: 約 1,500 m<sup>2</sup>(全体)

(下)イベントの様子

●交通広場に隣接した歩行者広場を活用し、イベントを開催するなど賑わいを創出

▼事例⑪: 定禅寺通り(仙台市)



【道路幅員】: 47m、【道路延長】約 700m



(左)JAZZフェスティバルの様子  
(下)オープンカフェの様子

●並木空間を活用して、様々なイベントを開催し、賑わい・憩い・交流の場を創出

▼事例⑫: 御堂筋通り(大阪市)



【道路幅員】: 44m、【道路延長】: 約 4,000m



(左)側道を活用したオープンテラス  
(下)植栽のイルミネーション

●側道を活用して、オープンテラス等を設置し、交流空間・賑わい空間を創出。イルミネーション等も定期的に開催。

▼事例⑬: 北3条広場(札幌市)



【道路幅員】: 約 27m、【道路延長】: 約 100m



(左)ベンチ等のくつろぎ空間  
(下)出店等が並び賑わい創出

●主要拠点を結ぶ区間に賑わい・憩う空間を創出することにより、中心エリアの新たな回遊拠点として機能

平成 29 年 8 月 2 日に鷹匠によるムクドリ対策を実施

# 鳥害に県内初 放鷹作戦へ



発行所：伊勢新聞社  
〒514-0831 南本市本町3-4番6号  
TEL059-224-0003 FAX059-228-3554  
www.isenp.co.jp  
©伊勢新聞社 2017

MDT  
三重データ通信株式会社  
三重インターネットサービス



ムクドリを追い払うため、鷹匠による放たれる鷹(四日市市提供)



毎夕、大量に飛来し、周辺への騒音被害や通行者へのふん言被害を生み出しているムクドリ(四日市市提供)

【四日市】四日市市の森智広市長は二十五日の定例記者会見で、近鉄四日市駅から三滝通りにかけて中央通りのクス並木に飛来し、周辺への騒音被害や通行者へのふん言被害を発生させているムクドリを追い払うため、鷹匠による放鷹を行うと発表した。鷹を放つのは県内では初めて。【二面に関連記事】

## 中心街で騒音、ふん 四日市、ムクドリ追い払い

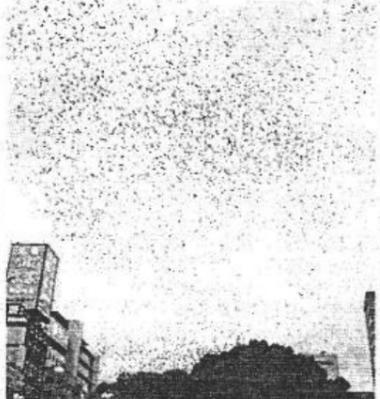
市長会見  
状況により、中央通りの歩道からも放鷹を行うが、交通規制などはない。  
森市長は「駆除ではなく、本来の住み処である山へ帰っていただく。このエリアには鷹がいると学習させ、学習効果が出るまでやる」と決意を示した。さらに「大四日市まつりの前にまず一度対応する。他の市町での実績もあるため期待しているし、被害がなく

平成 29 年 7 月 26 日  
伊勢新聞

# 対ムクドリ「放鷹作戦」

四日市市 害鳥駆除会社に依頼

10月末まで 市街地から山へ撃退



鷹匠の姿におびえて逃げ出したムクドリの大群(2日、四日市市で)。田坂誠撮影。タカを放つ準備をする鷹匠の江頭さん

四日市市中心部の街路樹をめぐらするムクドリ鷹の騒音やフン対策のため、市は今月から、天敵のタカを放って市街地から追い払う「放鷹作戦」を始めた。市によると、タカを使ったムクドリの駆除は県内の市町で初めてという。10月末にかけて30回ほど実施する予定で、市は「うまく山間部に追い払うことができれば」と期待している。

ムクドリ スズメ目ムクドリ科。全長24センチ程度。体は茶褐色でくちばしと足はダイダイ色。群れで生活する。日中は、田畑などで餌を取り、夕方からへ戻る。全国的に、市街地への集中による騒音やフン害が問題になっている。



午前午後時過ぎ、近鉄くさねから山へ逃げ、四日市駅中央通りのクス並木、青島駅前、グリンフィールド(大阪)によると、市内では10年ほど(20)の左腕からタカが飛び立つようになり、2、3年前から市街地に居着くようになった。近鉄四日市駅

同駅から市役所近くまでのクスノキ並木約500mの区間で週に2、3回、放鷹作戦を行う。事業費は約250万円。ムクドリがねぐらを移さないよう、周辺の緑地でも実施する考えだ。  
2日は、ムクドリが駅前にも集まり始めた夕刻から放鷹を開始。鷹匠の江頭さんと佐藤健さん(48)が並木道を進みながら、タカを放つのは呼び戻す作業を小刻みに繰り返し、ムクドリを追い出した。  
作戦を見守った同社の伊藤啓介・代表取締役は「ムクドリの群れの反応は良い感じだ。これなら、山間部にうまく追い払うことができると思う」と話す。市は「ムクドリが市街地にタカ

平成 29 年 8 月 5 日  
読売新聞